

教師と生徒がともに考える道徳科の実践

中札内村立中札内中学校 学級数 7 (校長 中村 俊緒)

I テーマの趣旨

本校は2か年に渡り、北海道道徳教育推進事業の推進校として指定を受け、「授業づくり」「評価」について多くを練り合い、共有、実践し、深化・統合の場として研修を重ね「教師力向上」を目指してきた。

II 実践の内容

1 授業づくり ～ 学習指導要領を読み込むことから始める～

校内研修において、「道徳科の目標」、「内容項目の概要」、「指導の要点」を確認することを授業づくりのスタートにすることを確認した上で、以下の2点を重点的に推進した。

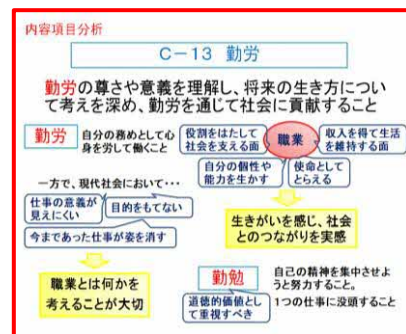
- (1) 内容項目は教材分析や発問構成の根幹となるものであることから「内容項目カード」を作成し、学習指導要領解説の内容項目を図式化し、全職員で共有している。また、教師と生徒が道徳科の授業の進め方について共通理解を図ることを目的に、オリエンテーションの内容を全学年で統一するとともに、積極的な相互参観及びミニ研究協議を促すため、道徳科の授業の予定を職員室に掲示した。

- (2) 授業の展開においては、導入場面において「テーマ」を提示し、生徒とともに教師も考える道徳科の授業の雰囲気づくりに努めている。同時に、ICT機器を効果的に活用することにより、教材の内容や発問を明確にしている。また、多面的・多角的に考えることを促すため、生徒全員の考えが残る板書の工夫や役割演技、心構えなどを効果的に活用した。授業の終末では、教師による一方的なまとめにならないよう、名言や動画を利用したり、生徒による振り返りを位置付けたりするなど、余韻を残した終末にすることで、道徳的価値を自分自身との関わりで考えさせることを目指している。特に、振り返りの場面では、感想だけを求めるのではなく、テーマと関連付けて「～においてどんな人でありたいか。」「今までの自分にどう伝えたいか。」などの発問を工夫することにより、道徳性を構成する諸様相である道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるようにした。

このような手立てにより、「教師と生徒がともに考える姿勢を大切にする道徳科」を積み上げてきた。また、学習指導案やICT機器のデータは全教職員で共有できるようデータベース化することで、今後、改善を図り、組織的に授業力向上を目指せるようにしている。

2 評価 ～ 「生徒の評価の視点」と「授業改善の視点」の統一 ～

本校では、道徳科の相互参観の際に、授業者よりも参観者の方が生徒の学習状況を見取ることが可能であると考え、参観者が指導と評価の一体化を目的とした「授業参観シート」に記入をしている。シートには「評価の4つの視点」を参考に、学習状況を見取るとともに、「それを実現する指導内容であったか」を記入できるようにしている。複数の教員で見取ることにより、評価の客観性及び妥当性を高めることができるとともに、このシートをもとに研究協議を行うことで授業改善に努めている。



【内容項目カード】

☆道徳科の授業改善のための評価シート			☆子どもの成長を認め、励ますための評価シート	
◎子どもの評価に照らし合わせた視点	その通り	差がない	◎評価の視点	
①自己を見つける場面が設定されていた	4	3 2 1	①自分を見つめようとしているか。	生徒名 _____ 評価の視点 _____ 具体的な場面(発言・記述など)
②物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える場面が設定されていた	4	3 2 1	②物事を広い視野から考えようとしているか。	
③自分との関わりの中で道徳的価値について考える場面が設定されていた	4	3 2 1	③自分との関わりの中で道徳的価値の理解を深めようとしているか。	
④自己(人間としての)生き方についての考えを深める場面が設定されていた	4	3 2 1	④今後の生き方につなげようとしているか。	

【授業参観シート】

III 成果と課題

- 内容項目に基づいた生徒アンケートの結果から、学年を増すごとに道徳性の高まりを見取ることができた。
- 日々の相互参観や、研究協議を通して全教職員の、道徳科の授業づくりの視点や授業改善の視点が他教科・他領域にも波及し、教師の指導力の向上につながっている。
- 北海道道徳教育推進校事業の推進校として、取組の成果の近隣校や管内への発信の仕方及び継続的な取組について具体的な方策を設定する必要がある。